

「宇都宮市 カーボンニュートラルの実現に向けた基本方針」について

1 趣旨

本市では、人口減少、少子・超高齢社会においても、子どもから高齢者まで誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち「スーパースマートシティ」の実現を目指しており、その大切な柱のひとつが「脱炭素社会の構築」です。また、「脱炭素社会の構築」は、SDGsの達成にも貢献するものです。

2050年カーボンニュートラル（※）の実現に向け、私たちの日常生活や経済活動などのあらゆる場面から排出されている温室効果ガスをなくすためには、ライフスタイルや産業構造を抜本的に見直す必要があります。決して容易なことではありません。

一方で、カーボンニュートラルの取組は、環境のためだけではなく、たとえば、建物の断熱性能の向上（夏は涼しく冬は暖かい、冬のヒートショック対策、光熱費の節約）や、スマートムーブ（徒歩や自転車、公共交通機関を使って移動することによる運動量の確保、渋滞緩和）など、快適で健康的な暮らしのメリットや、企業価値の向上にもつながるものです。

今、私たち一人ひとりが行動を起こし、市民・事業者・行政が一丸となって取り組んでいくため、カーボンニュートラル実現に向けた基本方針を定めます。

2 背景

気候変動の影響により市民生活に危機迫る

- ・ 宇都宮市の年平均気温は過去100年で2.3℃上昇（猛暑日・熱帯夜は増加、冬日・真冬日は減少）、年間降水量に長期的な変化はないものの、短時間豪雨（1時間に50mm以上）が増加、雨の降らない日数も増加しています。
- ・ 令和元年度に発生した台風第19号では、本市でも住宅の損壊、土砂災害、農林業被害などが発生しました。

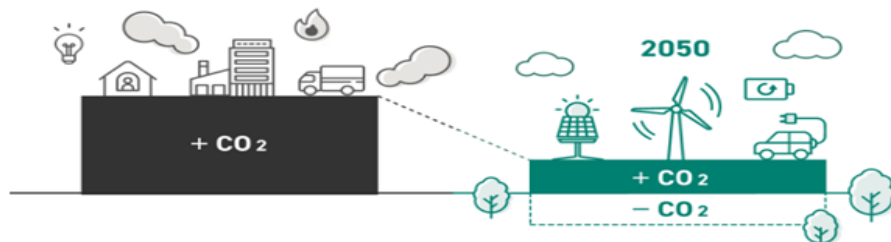
このまま何の対策もとらなければ・・・

- ・ 21世紀末には栃木県の年平均気温は4℃上昇し、猛暑日（最高気温35℃以上）は年間約30日増加、熱帯夜（最低気温25℃以上）は約60日増加、短時間豪雨（1時間に50mm以上）の発生回数が約1.8倍に増加する一方で、雨が降らない日の日数も増加すると予測されています。
- ・ 大雨による災害リスクや渇水による干ばつリスクの増大、熱中症リスクなど健康被害の大幅な増大が懸念され、自然災害、健康、農業等市民生活へ深刻な影響が出ると考えられています。

⇒ この影響をできる限り小さくするためには、私たち一人ひとりが行動を起こし、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすること（カーボンニュートラル）が不可欠

※ 2050年カーボンニュートラルとは

2050年までに、日常生活・経済活動に伴う二酸化炭素等の温室効果ガスの「排出量」から、植林や森林管理等による「吸収量」を差し引いて、その合計を実質的にゼロにすること。



出典）脱炭素ポータル（環境省）

宇都宮市 カーボンニュートラルの実現に向けた基本方針

「ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）」を基盤とし、
 「もったいない」のころのもと、「ひと」「もの」「まち」を大切にしながら、
 将来世代に残すことができる持続可能なまちをつくるため、
 かえる つくる 育てる の3つのアクションを実行し
 カーボンニュートラルなまち“うつのみや”を実現しよう

カーボンニュートラル実現のための3つのアクション

大胆に！ かえる

温室効果ガスが日常のあらゆる場面から排出されていることを意識して、脱炭素型のライフスタイル・ワークスタイルへ日々の行動を変えよう

今日からはじめる第一歩

- 通勤やお出かけに公共交通を使ってみよう
- 適度な冷暖房で、気候に合わせて快適に過ごそう
- 減らせるごみはないか、分別方法やお買い物の無駄をもう一度見直そう

もっと！ つくる

環境にやさしい再生可能エネルギーをつくり、そして使おう

今日からはじめる第一歩

- 住宅や社屋などへの太陽光発電設備や蓄電池の導入を考えてみよう
- 電力契約を、環境にやさしい再エネメニューに切り替えてみよう

みんなで！ 育てる

脱炭素社会にふさわしいまちになるために本市の資源であるNCC、人材、緑、技術、パートナーシップなどをさらに育て、活用しよう

今日からはじめる第一歩

- 住み続けられるまちにするために学び、考え、地域の活動に参加してみよう
- 暮らしに緑を取り入れてみよう

